保証書

持込修理　無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間中でも次の場合には有料修理となります。
   （イ）使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造等による故障及び損傷
   （ロ）お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
   （ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛り等による故障及び損傷
   （ニ）消耗または摩耗した部品、付属品の交換
   （ホ）本書のご提示がない場合
   （ヘ）本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合
   （但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。）
   （ト）本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
   （チ）一般家庭用以外（例:業務用、または業務用に準ずる使用方法）で使用された場合の故障及び損傷
3. ご贈答、ご転居等で本保証書に記入のお買上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	AM・FMラジオ付レコードプレーヤー			★お買上日：　　年　　月　　日
型　番	RRM-2775K-T	品　番	07-2775	保証期間：本体1年間（お買上げの日から）

お客様

★お名前　　様

★ご住所　〒

見本

電話　　（　　）

修理メモ

販売店

★住所　店名　電話

㊞

（注）★印欄に記入の無い場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
※この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM　株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
http://www.ohm-electric.co.jp

製品に関するお問い合わせは　**お客様相談室** へ

●フリーダイヤル（無料）　●携帯電話・公衆電話からは
0120-963-006　**048-992-2735**

電話受付　平日 9：00～17：30　土曜 9：00～17：00
日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は　**修理ご相談センター**へ

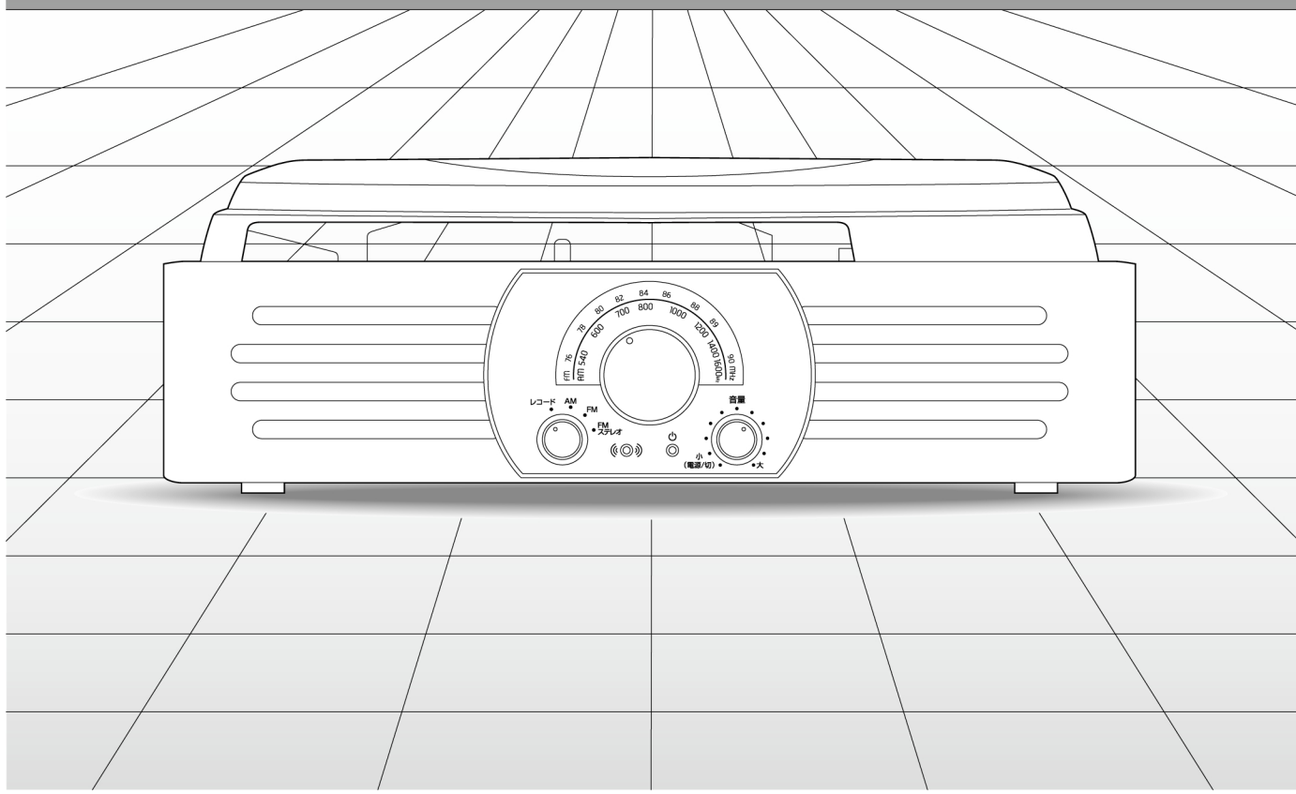
電話受付　**048-992-3970** 平日 9：00～17：00
土・日・祝日及び年末年始は除きます

07-2775B

AudioComm®

取扱説明書
保証書付

AM•FMラジオ付レコードプレーヤー
型番：RRM-2775K-T



このたびは、AudioComm®
AM・FM ラジオ付レコードプレーヤーをお買い上げいただき、
誠にありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。
本機の性能を充分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、
ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになられた後は、
ご使用時にいつでも見られますように大切に保管してください。

目次

安全上のご注意 …… 2
電源について …… 5
ラジオのアンテナについて …… 5
各部の名称と機能 …… 6
レコードを聴くには …… 7
ラジオを聴くには …… 9
LINE 出力する際の接続 …… 10
お手入れのしかた …… 11
故障かなと思ったら …… 12
主な仕様 …… 13
保証とアフターサービス …… 14
保証書

安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって３段階に表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠ **危険**	この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 （左図の場合は感電注意が描かれています。）
	◯記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 （左図の場合は分解禁止が描かれています。）
	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。 （左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。）

※この製品の故障、誤動作、不具合などによって発生した次にあげる損害などの附随的損害補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
●お客様または第三者がCD、テープまたは外部接続機器へ記録された内容の損害
●録音、再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

⚠ 警告

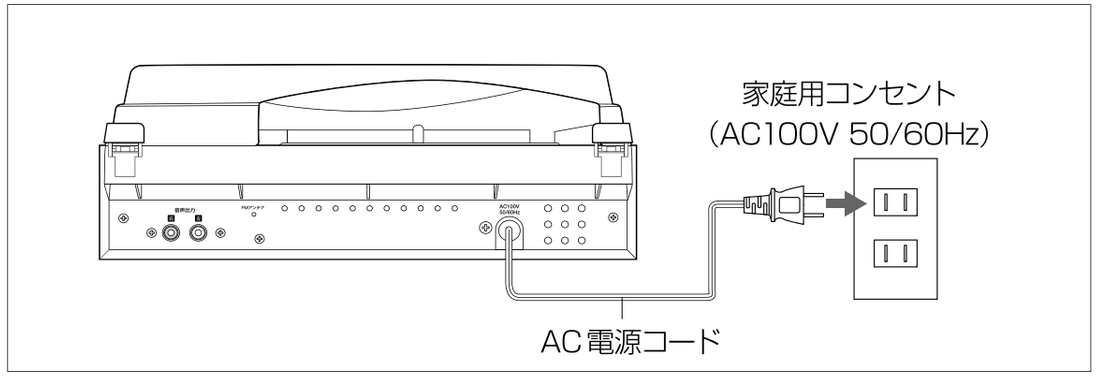
異常の時はコンセントから抜く	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。 煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。	接触禁止 感電に注意	●雷が鳴り始めたら、安全のため電源プラグを抜いてください。
水が入った場合はコンセントから抜く	●万一、内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。	水かけ禁止	●浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しないでください。火災や感電の危険があります。
異物が入った場合はコンセントから抜く	●万一、機器の内部に異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。	禁止	●表示された電源電圧交流 100 ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
分解禁止	●本体を分解、修理、改造しないでください。 火災・感電の原因となります。	禁止	●本体や電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。 コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず重いものをのせてしまうことがあります。
禁止	●この機器を使用できるのは日本国内のみです。自動車・船舶などの直流 DC 電源には接続しないでください。火災の原因となります。	禁止	●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。
コードを交換する	●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、使用を中止し、修理をご依頼ください。 そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。	禁止	●この機器を使用できるのは日本国内のみです。自動車・船舶などの直流 DC 電源には接続しないでください。火災の原因になります。

⚠ 注意

コンセントから抜く	●お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。	禁止	●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
禁止	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。	禁止	●カーペットなど、本体下部や側面が密着またはふさがれる場所に置かないでください。放熱を妨げ火災の原因となることがあります。
コンセントから抜く	●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部機器などのコードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。 コンセントから抜く時は必ずプラグ部分を持って抜いてください。	禁止	●電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
コンセントから抜く	●旅行などで長時間本機をご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き取ってください。火災・液もれの原因となることがあります。	禁止	●窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。 キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。
音量に注意	●ご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。近隣の迷惑になるとともに、耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。	禁止	●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
禁止	●調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。	禁止	●強い磁石のすぐそばなど、強い磁気を帯びた場所に置かないでください。
		禁止	●テレビや他のオーディオ機器を、このシステムの近くに配置したり、それらの接続コードの近くにあると、ハム音（ブーンという音）が出ることがあります。また、テレビの画面に縞模様が入ることがあります。このような時には、機器の配置や接続コードの配置を変えてみてください。

電源について

AC 電源コードのプラグを家庭用コンセントに接続します。



ご注意

●電源コードはコンセントにしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因となります。

●外出や旅行など、長期間本機を使用しない時は、安全のため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

ラジオのアンテナについて

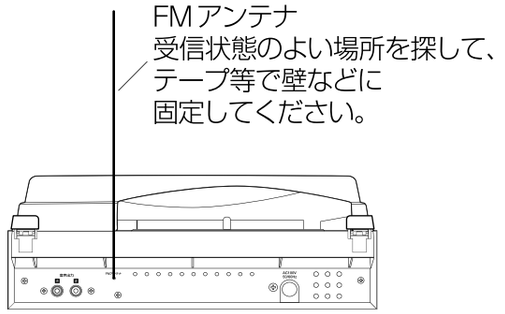
本機は AM アンテナ(内蔵型)と FM アンテナ(ワイヤータイプ)を装備しています。

AM 放送を聴く時は

AM 放送が最もよく聞こえる場所・向きに本機を設置してください。

FM 放送を聴く時は

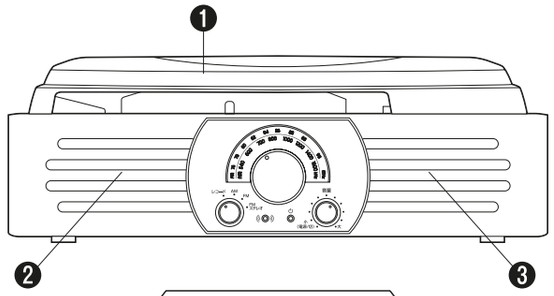
本機背面の FM 放送受信用ワイヤーアンテナを、FM 放送が最もよく受信できる方向へ伸ばして、テープ等で固定してください。

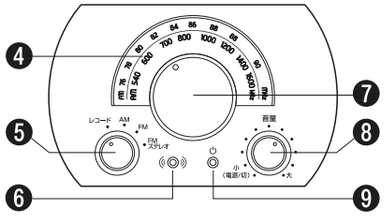


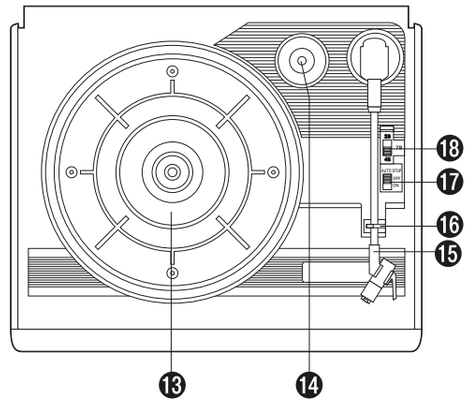
結露について

寒い場所で暖房をつけた直後や、急に暖かい場所に置いた時などに、本体内部に露(水滴)がつき、正しく動作しないことがあります。その場合は、電源を入れて約 1 時間くらい放置すると正常に動作するようになります。

各部の名称と機能







❶ダストカバー

❷左スピーカー

❸右スピーカー

❹選局目盛り

❺ファンクションつまみ

レコード／ AM ／ FM ／ FM ステレオから聴きたいモードを選択します。

❻FM ステレオランプ

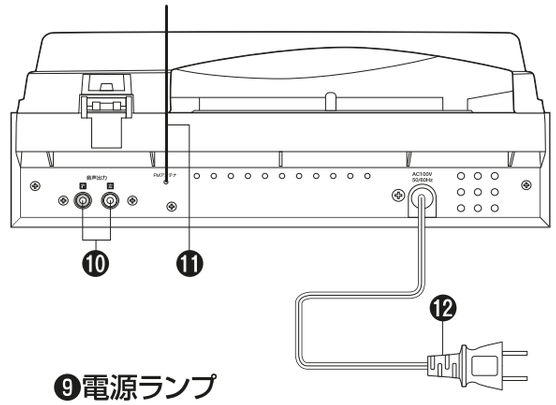
FM-ST モードでステレオ放送を受信すると点灯します（電波が弱いと点灯しないことがあります）。

❼選局つまみ

ラジオ局を選びます。

❽電源／ボリュームつまみ

電源のオン・オフ、音量の調節をします。



❾電源ランプ

電源が入ると点灯します。

❿LINE 出力ジャック

外部機器と接続する際に使います。

⓫FM アンテナ

⓬AC 電源コード

⓭ターンテーブル

⓮EP 盤用アダプター

EP 盤（ドーナツ盤）をかける時に使用します。

⓯トーンアーム

⓰アームレスト

トーンアームの支持台。使用する時は止め具を外してから操作してください。

⓱オートストップ切換スイッチ

スイッチが「OFF」の時

レコードモードで電源を入れると、ターンテーブルが回転します。演奏が最後まで終わっても、回転を続けますのでご注意ください。

スイッチが「ON」の時

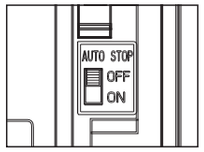
トーンアームをターンテーブルに近づけるとターンテーブルが回転します（アームを戻すと停止します）。また、演奏が最後まで終わると、ターンテーブルが自動停止します。

⓲回転スピード切換スイッチ

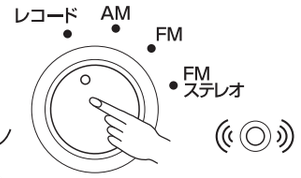
レコードの回転数を切換えます。

多くの場合、LP 盤は 33 回転、EP 盤は 45 回転、SP 盤は 78 回転に合わせます。

レコードを聴くには（オートストップ切換スイッチが「OFF」の時）

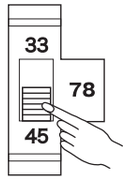


オートストップ切換スイッチが「OFF」の時は 電源を入れるとターンテーブルが回転を始めます。演奏終了後もターンテーブルが回り続けますので、演奏が終わったら直ちにトーンアームをアームレストに戻してください（自動では戻りません）。そのまま放置するとレコード針の損傷・音質低下の原因になります。



1 ファンクションつまみを「レコード」に合わせます

※電源がONの時、ターンテーブルが回転します。



2 レコード盤の種類に合わせて回転スピード切換スイッチを切換えます

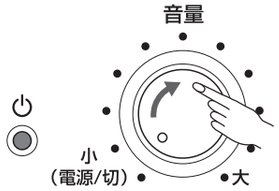
多くの場合、LP盤は33回転、EP盤は45回転、SP盤は78回転です。

3 ターンテーブルにレコード盤をセットします

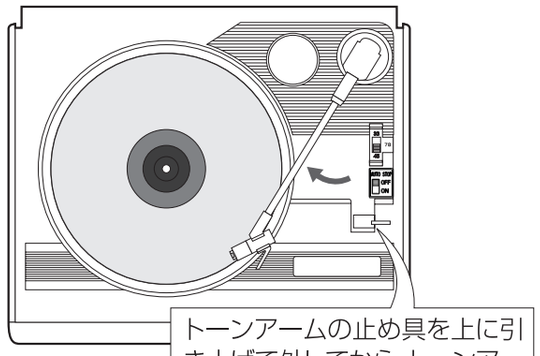
EP盤の場合は、EP盤用アダプターをターンテーブルの軸部にセットしてください。

4 電源／ボリュームつまみを回して電源を入れます

電源ランプが点灯し、ターンテーブルが回転します。この時、音量を上げすぎないようにご注意ください。



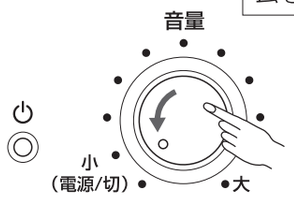
5 トーンアームの止め具を外し、演奏したいところにゆっくりと降ろすと演奏が始まります



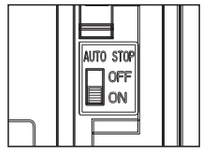
6 電源／ボリュームつまみを回してお好みの音量に調節します

7 演奏を中止したい場合や、最後まで演奏が終わった時は、指でトーンアームを持ち上げ、アームレストに戻してください

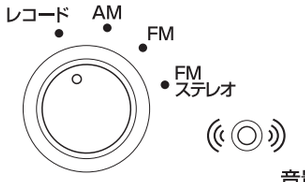
8 電源／ボリュームつまみを回して電源を切ります



レコードを聴くには（オートストップ切換スイッチが「ON」の時）



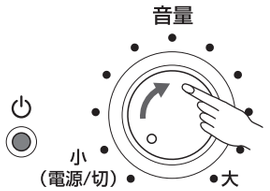
オートストップ切換スイッチが「ON」の時は、トーンアームの動きに合わせてターンテーブルが回転・停止します。演奏が終わるとターンテーブルが自動的に止まります。ただしトーンアームは自動では戻りませんので手動でアームレストに戻してください。



1 ファンクションつまみを「レコード」に合わせます

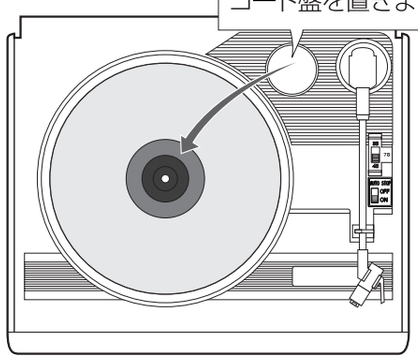
2 電源／ボリュームつまみを回して電源を入れます

電源ランプが点灯します。音量を上げすぎないようにご注意ください。



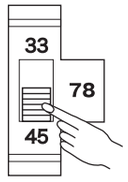
3 ターンテーブルにレコード盤をセットします

EP盤の場合は、EP盤用アダプターをターンテーブルの軸部にセットしてください。



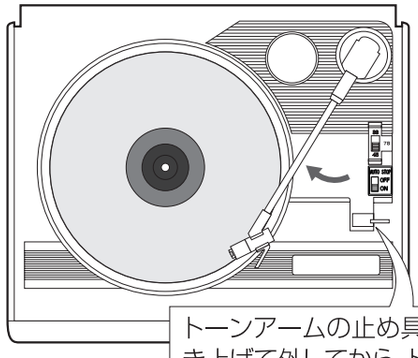
4 レコード盤の種類に合わせて回転スピード切換スイッチを切換えます

多くの場合、LP盤は33回転、EP盤は45回転、SP盤は78回転です。



5 トーンアームの止め具を外し、演奏したいところにゆっくりと降ろすと演奏が始まります

トーンアームをレコード盤に近づけるとターンテーブルが回転し始めます。



6 電源／ボリュームつまみを回してお好みの音量に調節します

7 演奏を中止したい場合は、指でトーンアームを持ち上げ、アームレストに戻してください

8 電源／ボリュームつまみを回して電源を切ります

ご注意

EP・SP盤再生時、盤の終わり近くの途中で停止してしまうことがあります。その際は、オートストップ切換スイッチを「OFF」にしてください。

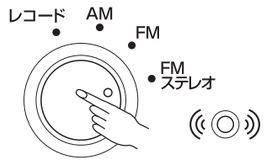
ご注意 トーンアームの移動時は、レコード盤にキズを付けないようご注意ください。

ラジオを聴くには

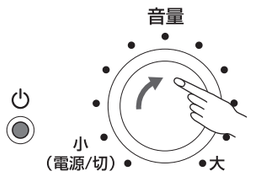
よりよく受信するために、なるべく窓側の受信感度のよいところへの設置をおすすめします（アンテナの張り方やセットの置き場所によっては、放送が正しく受信できない場合があります）。

1 ファンクションつまみを受信したいラジオモードに合わせます

AM／FM／FM ステレオのいずれかに合わせてください。

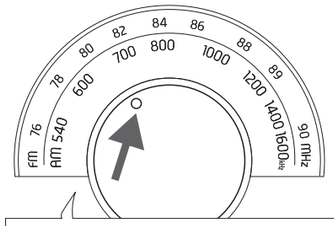


2 電源／ボリュームつまみを回して電源を入れます



3 選局つまみを回して聴きたい放送局の周波数に合わせます

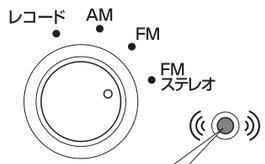
選局つまみにある小さな凹部を聴きたい放送局の周波数に合わせてください。



このくぼみ部分を聴きたい放送局の周波数に合わせてください。

※「FM ステレオ」を選択した状態で FM ステレオ放送を受信すると、FM ステレオランプが点灯します。

※FM ステレオ放送を受信時に、電波が弱い場合や不安定な場合は、雑音が入りやすくなります。その場合はファンクションつまみを「FM」にしてみてください（ただし「FM」の場合はステレオにはなりません）。



「FM-ST」を選び、FM ステレオを放送を受信すると点灯します。

4 電源／ボリュームつまみを回してお好みの音量に調節します

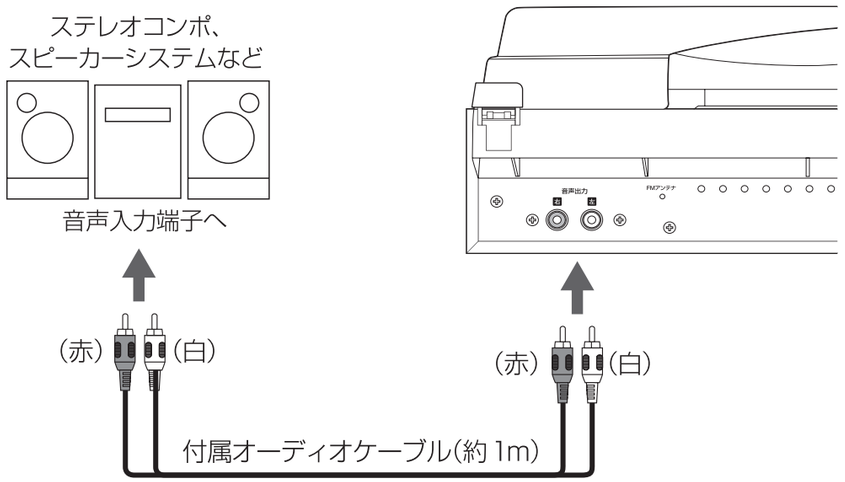
5 ラジオを切る時は電源／ボリュームつまみを回して電源を切ります

ご注意

テレビの近くで AM 放送を受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機を離してご使用ください。

LINE 出力する際の接続

付属オーディオケーブルを使って、お持ちの外部入力(AUX IN)端子付きのコンポーネントステレオや、スピーカーシステムなどと接続することができます。



※プラグの色(赤／白)と機器の入力ジャックの色(赤／白)を合わせるように接続してください。

ご注意

LINE音声出力の音声は、内蔵スピーカーのボリュームと連動しております。音声は外部システムと本機と両方のスピーカーから出力されます。

お手入れのしかた

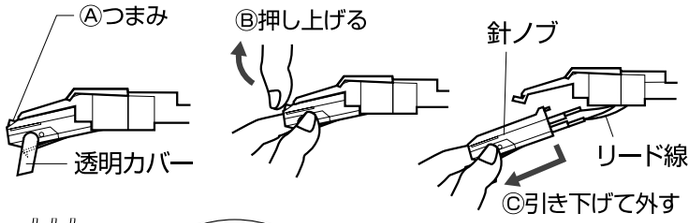
レコード針の交換

レコード針は 50 時間ほど使用するとすり減って音質が悪くなり、レコード盤を傷めます。早めに弊社指定の専用交換針にお取り換えください。

専用交換針(3本組)
弊社商品番号　03-1900

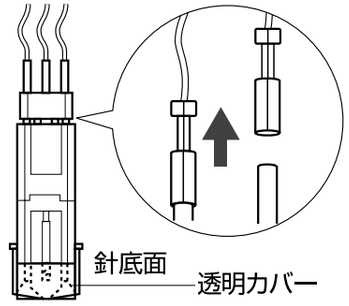
はずし方

1 A 部分のつまみを矢印 B の方向に押し上げながら、針ノブを持って矢印 C の方向へ引き下げます。
※この時、リード線を切らないようにご注意ください。

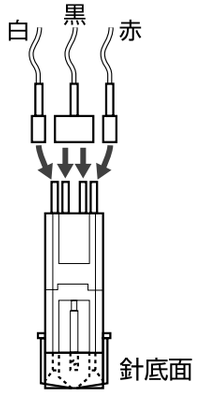


リード線の着脱

2 3 本のリード線の先端にある、筒状のファストン端子を静かに抜き取ります。



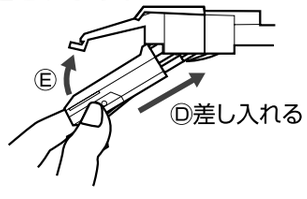
3 新しい針ノブの端子に、リード線の色に注意しながらファストン端子を差し込みます。



取り付け方

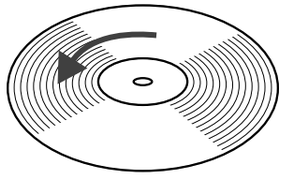
4 針ノブの爪部をカートリッジの爪受穴に合わせてから、矢印Dの方向へ差し入れます。

5 針ノブの先端を矢印 D の方向へ軽く押し付けながら、矢印Eの方向へ押し上げて取り付けます。パチンと音がして固定されます。



レコード盤のお手入れ

レコード盤にほこりやゴミが付着すると、音飛びや雑音の原因となりますので、市販のクリーニングキット等でクリーニングすることをおすすめします。
クリーニングする際は、レコード盤の溝に沿って弧を描くように行ってください。



キャビネットのお手入れ

キャビネットや操作部が汚れたら、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい時は、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布に吹き付けて拭き、つづいて乾拭きをしてください。

故障かなと思ったら

本機の調子がおかしいときは、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店、または、弊社修理ご相談センターにご連絡ください。

	症状	チェック項目
共通部	電源が入らない	電源コードは正しくコンセントに差し込まれていますか。
	音が出ない	ファンクションつまみの位置は正しいですか。
		電源は入っていますか。
		音量が最小になっていませんか。
ラジオ部	FM 放送の雑音などがひどい	FM アンテナの張り方を変えてみてください。
	AV 放送の雑音などがひどい	テレビや蛍光灯が近くにありませんか。
レコード部	レコードの音がおかしい	レコードの回転数は合っていますか。
	雑音が入る	レコードの針が摩耗していませんか。
		針先にほこりがたまっていませんか。
	「ワーン」という音が出る（ハウリング現象）	本機の置き方や部屋の状態により発生する場合があります。置き方や音量を調整してみてください。
	音とびを起こす	床の振動などが本機に伝わっていませんか。
		レコード盤にキズがついていませんか。
		本機を水平な場所に置いていますか。傾いていると針が飛びやすく音とびの原因になります。
		レコード盤にそりはありませんか。
	レコードの回転が途中で止まる	オートストップ切換スイッチが「入」になっていませんか。標準的なレコードより演奏時間が長いと、途中で止まる場合があります。オートストップ切換スイッチを「切」にして、演奏終了後、手動でトーンアームを戻すようにしてみてください。

ご注意

本機を 0℃前後の場所から暖かい場所へ急に移動させた時、正常に動作しないことがあります。これは本機の内部に露が発生したためで、約 1 時間ほど経つと正常に戻ります。

ご注意

本製品の仕様については事前の通告なしに変更されることがあります。また、貴重なレコード盤等に対する本製品を運用した結果の影響に関しては、一切の責任を負わないものとします。

主な仕様

ラジオ部	
受信周波数	FM：76～90MHz　　AM：540～1600kHz
アンテナ	FM：ワイヤーアンテナ　　AM：フェライトバーアンテナ内蔵

レコードプレーヤー部	
形式	マニュアル機構
ターンテーブルスピード	33 1/3回転、45回転、78回転　3スピード
カートリッジ	セラミックタイプ
駆動方式	ベルトドライブ
周波数特性	150Hz～7kHz

本体	
実用最大出力	1.5W+1.5W(10% THD)
電源	AC100V　50／60Hz
消費電力	14W
外形寸法	318(幅)×285(奥行)×128(高) mm
重量	2400g

スピーカー部	
形式	1ウェイ方式　3×1.5インチ楕円形 4Ω×2
周波数特性	100Hz～10kHz

付属品
取扱説明書・保証書(本冊子)　EP盤用アダプター　スリップマット　オーディオケーブル(約1m)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

保証とアフターサービス

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より 1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。